

ちば里山新聞

(第60号)
 編集発行 NPO 法人ちば里山センター
 袖ヶ浦市長浦拓2号 580-148
 ☎ 0438-62-8895
 題 字 倉島 貴浩
 (ワークホーム里山の仲間たち)

令和3年度ちば里山カレッジが終了しました！！

第1回の「地域に開かれた森づくり」は松戸市民会館で松戸里やま応援団野口功講師により「地域に開かれた森を目指して」と題し、荒廃した里山を市民活動団体と協働し、里山を保全・整備してきた。さらに地域に開けた森をアピールするため2012年よりオープンフォレストを開催し9日間、各森が工夫を凝らし、市民を招くイベントを行ってきた。市民に開かれた活動をどう拡げ、どう活かし地域に繋げて、どう次世代の子供たちにつなげていくかが課題だと語っています。午後からは松戸里山団体困いやまの森の拠点に移り「森遊びとロープワーク」を3班に分かれてゲームや作業を行いました。受講生が出来上がったハンモックに乗り青空を見て、とても気持ちが良いと楽しんでいました。



手づくりハンモックの製作

第2回の「私と森とのかかわり方」はちば里山センターでおこなわれ、一般社団法人もりびとの千葉美賀子講師による「さまざまな可能性に挑む」で、里山活動においてはいかに収益を得て、次の活動に繋げていくかが重要であると力説します。自然災害で倒れた、手の付けられない樹木処理の請負、花卉業者へ薪の販売、メンマ製造業者へ材料のタケノコの提供と新たな事業への挑戦を続けています。受講者からも各事業を現場でみて体験したいと要望もありました。午後からは千葉県自然観察指導員協議会の晝間初枝講師による「身近な自然遊びのヒント」です。



茎に毛糸を巻き付ける

講義冒頭に里山センターの外に飛び出して、尾澤伸幸氏も加わり「自然大好きビンゴ」と称して、自然の中でビンゴに書かれた青い花、落ち葉、木に咲く花・・・と16の項目を自然の中で探してくるというゲーム感覚で行い、最後に自分好みの木の枝を拾って教室に戻るというユニークな授業です。教室に戻ってからはセイタカアワダチソウの乾いた茎を適当に折り重ね、毛糸を巻き付けていくと左写真のようにアート作品のように様変わりし、素晴らしいお土産になりました。

3回は「自然体験の場としての森」のテーマで森の中を子どもたちの体験の場として利用している二人の講師にお願いした。千葉冒険遊び場ネットワークの古川美之講師はプレーパーク(冒険遊び場)について「プレーパークは子どものための遊び場で禁止事項がない。プログラムがない。いつでも、誰でも遊べる。障害があってもなくても遊べるという要素を大事にする。」「自然の中で、遊びの中で育つ体と心を大切に」をキーワードにし、やりとげる力、乗り越える力、行動する力、人と関わる力を育てていこうというのが狙いだという。続いて、NPO法人リトカル中田真也子講師による「QRコード付き樹名板づくり」で木のスライス板に樹木名を書き入れ対応したQRコードを張り付ける。まわりを自分好みのデザインで飾り、出来上がった樹名板にニス塗りをして、乾く間にちば里山センター内に取り付けられた樹名板にて使用方法教わる。樹名板のQRコードをスマートフォンにて読み込むと「はなもく散歩」のアプリが開き、樹木名が現れてクイズが出題され回答を求められるなどクイズや遊びの要素を組み合わせるバリエーションが考えられ、色々と発展出来るアプリになっています。



QRコード付き樹名板づくり

第 4 回は「森林被害にどう立ち向かうか」のテーマにて千葉県農林総合研究センター森林研究所(山武市)で



カシノナガキクイムシの標本

開催されました。まずは福原一成講師による「木を枯らす虫の話」において特に最近広がっているナラ枯れ被害について原因と対策について説明があり、原因はカシノナガキクイムシがナラ菌の媒介にて樹液が上がらなくなりブナ科樹木が枯死する現象は「ブナ科樹木萎凋病」といわれる。被害木は殆ど 30 cm 以上の大径木で近年、燃料としての薪、椎茸のホダギとして伐採処理されなくなったことも原因の一つとされている。簡易な防除法としてクリアファイル利用した捕獲トラップで捕獲するほか、殺菌剤の樹幹注入する方法、カシナガ活動期の 6 月以降に MEP 乳剤を幹に散布しビニールラップを上から根本まで巻くという方法もある。午後からは福島成樹講師による森林研究所構内の視察見学を行った。サンプスギは建築材として有用な材だったが、挿し木のクローンで育成させるため、非赤枯性溝腐病に弱いという欠点を持っている。構内ではサンプスギ 2 年目、3 年目の成長研究、挿し木の研究施設もあるそうです。

第 5 回は「森林資源を生かしたビジネス」のテーマで午前中、木更津市かずさアカデミアホールで「地域資源の多角的活用」について市原市バイオマス利活用推進協議会高橋真講師により日本各地の森林資源の活用ビジネスとして、長崎県五島市福江島の堆肥センター、北海道清水町のメタンガス発電、徳島県上勝町の葉っぱ

ビジネスなどがあり、千葉県では純国産メンマプロジェクト FOOD EX とつなげ、房の駅で販売されているメンマは大好評で、売り切れ続出になっているようです。続いての講義は養命酒社松見繁講師による「クロモジの薬効について」、クロモジは全国に分布するが地域により 5 種類ほどあるそうです。利用としてはクロモジ茶が一番多く、楊枝としても使われるが久留里の雨城楊枝の細工ものは全国的にも珍しいそうです。養命酒社でのクロモジの活用には栽培で育てたクロモジを燻蒸により精油と芳香蒸留水を抽出し利用しています。特に高価な精油には睡眠改善・リラックス作用があり特筆すべきは抗菌作用、抗ウイルス作用もあるのでインフルエンザの予防にもなるそうです。昼食後、バスに乗ってクロモジ栽培地のある、きさらず里山の会の活動地へ、バスの中できさらず里山の会柴崎則雄氏より「クロモジ林内栽培の展望と課題」についての概要説明がありました。現地へは途中より田んぼ道を歩き、山に入り道祖神のある昔の街道分岐の場所がクロモジ栽培地です。令和元年の台風被害で杉等が倒木幹折れで日当たりが良くなり、半日陰を好むクロモジは葉っぱが少なく、枯れかけたものもあります。対策として杉を植えて成長を待っている状態です。課題としては精油が一番取れるのは 6、7 月と 9、10 月なので、生育環境(日照、気温)を調べ、日陰を作り気温を 30℃ 以下に保つことです。クロモジの認知度はまだ低く、ビジネスとして成り立つにはいっそうの努力が必要とのこと。



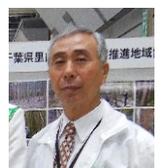
台風による杉の倒木により日陰を好むクロモジに影響

6月19日ちば里山センター総会にて佐藤孝之氏が理事長に選任されました！！

就任挨拶はちば里山センターHPにも載っていますが「全世代で里山の魅力を感じてもらえるような取り組みが必要になってくると感じており、これからは、里山、里海、里川…みんな森と繋がっています」と語っています。



左写真は 11 月 8 日千葉県庁へ熊谷俊人知事に就任の挨拶に訪れたときのものです。左より、伊藤副理事長、堀理事、熊谷知事、佐藤理事長、尾形副理事長 右写真は前任の金親博榮氏

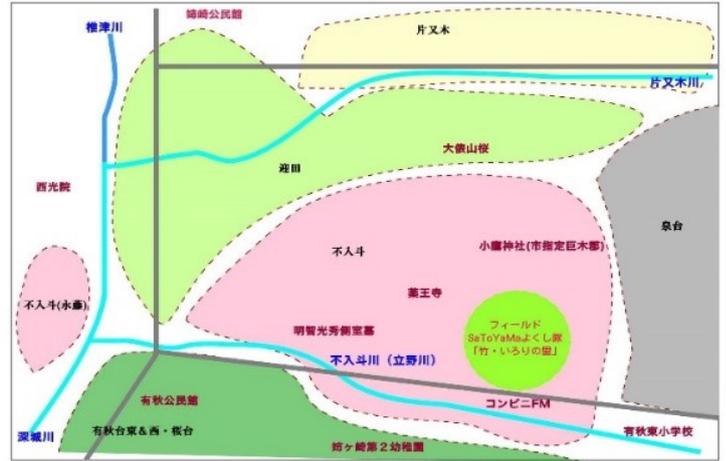


里山じまん ⑦

市原 SaToYaMa よくし隊

SaToYaMa よくし隊5つのじまん

・じまん その①[地の利の良さ]私たちのフィールドは不入斗62にあり、3本の川(片又木川・不入斗川、深城川)に囲まれた丘陵台地です周辺には泉台・立野・片又木・迎田・不入斗・有秋台東西・桜台・椎木台の居住地や公民館、学校、幼稚園、など点在し、自転車なら20分で往来できる都市と山密接型里山です。



フィールド地の利図

・じまん その②[地域密着型活動] H17年発足以来里山中心コミュニティー目指し活動を進めてきました。3年過ぎた頃から春「タケノコパーティー」秋「山形風芋煮会」を地域住民招待や参加者募って恒例開催し

てきました。100人超もの参加者で盛大に実施しました。煮炊道具や施設建設材料は寄付で造りました。活動初期は道端ですれ違っても挨拶無、今は良好挨拶、お茶飲みに立寄る関係性もできました。



有秋東小学校6年生の環境学習

子どもたちは里山を使って創造的に遊びます。春秋のイベントでは、食材を刻んだり、煮たり、運営を担当したりする中から老若男女、地域連帯感が芽生えます。

・じまん その③[創意工夫旺盛な活動仲間]現役時代の知恵や技を里山キャンパスに活かし、自己満足と皆役に立つのが嬉しく、竹を材料に生活用品や楽しいおもちゃ作り、地域の伝統技術継承にも一役かっている、小鷹神社の注連飾り、ミニ門松作り、吉沢に伝わる注連飾りや高齢者宅の庭木伐採や草刈りなど支援し頼りにされている。

・じまん その④[子育て中の家族が隊員に加わったこと]姉ヶ崎第2幼稚園や有秋東小学校、有秋・姉ヶ崎公民館との支援活動の中から、「竹・いろりの里」の良さを感じて隊員になる親子が増えてきました。親子達は、里山舞台を使って子どもを遊ばせませす、子どもが遊んでいる間は草取りや片付けなど



フィールド入口の無人販売所

・じまん その⑤[活動資金の自己調達]隊員の持つ知恵技術を商品化そして販路獲得をめざしてきました。無人販売所、受注販売、委託販売、各種謝金収入、地域お助けマン収入、イベント収入などで賄っています。



・今後のじまん[里山を春夏秋冬里山を見て美しいと感じられる里山、里山子育ての拡充、気軽立寄り、アロマ原木生産、SDGs は日常活動から、後世に引き継げる基盤(利益を生み出す里山)造り]を目指しています。

竹の遊具作りも、じまんで千葉日報でも紹介された竹のすべり台は安全を考慮楽しく遊べるようになっていきます。SaToYaMa よくし隊 隊長 鈴木幹夫

<<岡部塾の日程>> 見学は自由となっています

- 市原米沢の森 第1回 11月21日、第2回 11月28日、第3回 12月5日
- 袖ヶ浦椎の森 第4回 12月19日、第5回 1月9日、第6回 1月23日、第7回 2月6日、第8回 2月20日、第9回 3月6日





竹の不思議 (120年に一度竹の花が、白い竹林、黄金の竹)

6月19日ちば里山センター総会で紹介されたNPO竹研究会代表理事田代武男氏によるとハチク(淡竹)の花が昨年より全国的に咲き始めたそうだ、過去には1908年前後に開花した記録がある。これが、ハチクの開花周期120年説の所以である。まことミステリアスな話でもある。このことに興味をそそられ8月17日四街道の田代武男氏邸を訪ねてみました。家の庭にはハチクの花が咲き乱れている



がその後のハチクはどうなるのか、ハチクは花が咲いた後の

結実は1%未満なので種による増殖は望めないが地下茎の連なりにより花の咲かない若芽が育っているのである。孟宗竹の結実は70~80%で花の咲いた竹は枯死するが3,4年で回復するそうです。その他自宅の庭には白い紋入りのミズキ、イタドリ、ヒノキ、リュウノヒゲなど紋入りマニヤのようです。自宅から少し離れた竹研究分園には「白い竹林」があるというので行ってみました。そこには右写真のような見事な白い竹が育っていました。



白い竹は葉緑体のDNAが変異(色素体突然変異)したものだそうだ。白い竹は葉緑素が無いので光合成が出来ず枯れてしまうはずであるが、真っ白い竹が枯れないのは地下茎が広がっていて、どの竹も繋がっていて養分を地下茎に蓄えておく性質があることからである。白い竹林の育成・管理には養分の補給者である緑葉の多い竹を同時に一定数、育てることで、いわゆる親代わり援護者を育てることである。



最後に今回は行けなかったが成田に所有する百竹園には黄金に輝く「孟宗^{もうそう}金^{きん}明^{めい}竹^{ちく}」があるという。田代氏は数十年にわたって孟宗金明竹を観察し続け、竹の^{むら}稈が3層構造であることを発見する。また、竹の成長過程で偶然に起こる編成変えや突然変異を見逃さず、世界で初めて竹の品種改良に成功する。1層から3層まですべ

て黄金色の黄金孟宗竹700本と、緑に黄金線の入る銀明^{ぎんめい}孟宗竹100本を育て上げた。その黄金孟宗竹のタケノコはやわらかく、えぐみも無く美味しいそうです。

編集後記

ちば里山センターは理事長が変わり新任理事も加わり、新体制で新しいことへとチャレンジして行きたいところですがコロナが立ちふさがると言った塩梅です◆最近コロナ感染者も収束気味ですが再び拡がら無いことを祈るばかりです◆それから、ナラ枯れが増える一方で枯れた木の処理にも頭を悩ませています。(Y.A)



里山の風にゆられて ⑱



キツネノカミソリ<狐の剃刀>ヒガンバナ科

キツネノカミソリとは、まず名前に驚く早春に伸びる葉の形が剃刀に似て、夏に葉が無くなりお盆の時期に突然茎を伸ばし花が咲くことが狐に騙されたと思うからでしょうか?似ているヒガンバナは秋の彼岸時期に咲くことから、何か日本人の風習に合わせて心に残る花である。

写真・文 赤松義雄 R3.8.17 市原市風呂の前

入会申し込み・問い合わせ先

特定非営利活動法人 ちば里山センター

〒299-0265 千葉県袖ヶ浦市長浦拓2号580-148 ☎0438-62-8895 FAX0438-62-8896 (平日9:00~17:00)

E-mail info@chiba-satoyama.net ホームページ <https://chiba-satoyama.net/>